

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【四半期会計期間】	第41期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	アシードホールディングス株式会社
【英訳名】	ASEED HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 寺地 實
【本店の所在の場所】	広島県福山市船町7番23号
【電話番号】	(084)923-5552
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員経財グループ担当 橋本 義徳
【最寄りの連絡場所】	広島県福山市船町7番23号
【電話番号】	(084)923-5552
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員経財グループ担当 橋本 義徳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第1四半期連結 累計期間	第41期 第1四半期連結 累計期間	第40期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高 (千円)	9,367,646	8,931,860	33,968,966
経常利益 (千円)	291,048	216,956	565,394
四半期(当期)純利益 (千円)	248,914	154,982	368,969
四半期包括利益又は包 括利益 (千円)	245,305	117,313	398,428
純資産額 (千円)	3,997,205	4,081,998	4,056,881
総資産額 (千円)	17,647,708	17,354,121	16,451,679
1株当たり四半期(当 期)純利益金額 (円)	37.41	23.51	55.63
潜在株式調整後1株当 たり四半期(当期)純 利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.65	23.52	24.66

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(アシードホールディングス株式会社)及び子会社7社により構成されており、自販機運営リテイル、飲料製造、飲料サービスシステム、不動産運用を主たる業務としております。

当第1四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

##### <自販機運営リテイル>

平成24年6月1日付をもって、連結子会社であるアシード株式会社が、静岡ビバレッジ株式会社の全株式を取得し新たに子会社としたため、連結の範囲に含めております。

なお、主な事業内容の重要な変更はありません。

##### <飲料製造>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

##### <飲料サービスシステム>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

##### <不動産運用>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要に支えられ景気回復の兆しがみられましたが、国内では円高や電力供給問題、海外においては欧州の金融不安やアジア経済の減速等の影響により、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

自販機オペレーター（運営リテイル）業界におきましては、自販機のロケーションや設置台数の飽和状態が続くなか、過剰な設置競争や取引条件競争に加え、業種業態を超えた価格競争の激化に伴う収益性の低下などにより、業界再編が一段と加速化しております。また、福島第一原発事故を起因とした電力供給問題が広く社会的な関心となるなか、自販機産業もこれまでの量的拡大から大きく転換し、環境との調和を重視した質的向上が強く求められております。このような状況のなか、当社グループでは政策的に不採算自販機の撤去を進めるとともに、フルライン自販機の推進により過剰に設置された自販機の集約化を図りました。また、自社ブランド商品の育成により中長期を見据えた収益構造改革に取り組みました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高8,931百万円（前年同四半期比4.7%減）、営業利益225百万円（同18.2%減）、経常利益216百万円（同25.5%減）、四半期純利益154百万円（同37.7%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 自販機運営リテイル事業

電力供給問題が長引くことにより、オフィスや公共施設等を中心に新規の自販機設置は非常に厳しい状況が続きました。また、節電意識の高まりにより社会の自販機に注ぐ目も一層厳しくなっており、自販機のスクラップ・アンド・ビルドが急速に進みつつあります。このような状況のなか、当社グループでは不採算自販機の計画的な撤去を進めるとともに、消費者ニーズに即した付加価値の高い商品を1台に集約して提供する「フルライン自販機」の推進と自社ブランド商品の育成に取り組みました。

この結果、自販機運営リテイル事業の売上高は5,182百万円（前年同四半期比6.0%減）、セグメント利益は75百万円（同45.5%減）となりました。

#### 飲料製造事業

春先の天候不順による気温低下が続いたことにより、例年と比較して受託数量は厳しい状況で推移いたしました。しかしながら、ブランドオーナーに対し高品質で価格訴求力の高い清涼飲料と低アルコール飲料を積極的に企画・提案するとともに、自社ブランド飲料の製造・販売を強化したことにより製造数量は前年同四半期比9.9%増となりました。

この結果、飲料製造事業の売上高は3,618百万円（前年同四半期比1.9%減）、セグメント利益は197百万円（同5.6%増）となりました。

#### 飲料サービスシステム事業

遊技場等のお客様に対して、自販機のソフト化と、カップ飲料自販機のサービス価値を向上させる「アオンズ・カードシステム」の導入強化に取り組みました。

この結果、飲料サービスシステム事業の売上高は112百万円（前年同四半期比24.0%減）、セグメント利益は21百万円（同47.8%増）となりました。

#### 不動産運用事業

広島県福山市内の賃貸駐車場と賃貸収益ビル、山口県周南市及び広島市西区内の賃貸事務所兼倉庫、佐賀県佐賀市内の貸店舗等の稼働の結果、不動産運用事業による売上高は17百万円（前年同四半期比6.2%増）、セグメント利益は29百万円（同31.9%増）となりました。

（注）記載金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当社グループは飲料製造事業において、各事業会社の品質保証・製品開発部門にて既存飲料製品の成分分析、サンプル品の製造を中心に、今後の事業の中心となる製品の研究開発を進めており、当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は、1百万円となっております。

なお、前連結会計年度までは、研究開発費が軽微であったため記載を省略しておりましたが、今後研究開発活動の重要性が増すことが予想されるため、当第1四半期連結累計期間より記載しております。

#### (4) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、飲料製造事業における炭酸飲料について、生産、受注及び販売実績が著しく増加しております。これは主に既存顧客から特定の製品についての受注が前年同四半期と比較して著しく増加したこと及び新規顧客からの受注生産開始によるものであり、これによる生産実績は893百万円（前年同四半期比24.0%増）、受注実績は954百万円（前年同四半期比40.3%増）及び受注残高は293百万円（前年同四半期比47.9%増）であります。

#### (5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

東日本大震災後の慢性的な電力供給問題と、ますます高まる節電機運により、社会の自販機に注ぐ目が一段と厳しさを増しております。このような状況のなか、自社投資による「フルライン自販機」と小型コーヒーマシン「カフェバー」の増設を強化するとともに、M&A戦略を強化して業界再編を促してまいります。また、フルライン自販機では従来の一律的な販売価格の見直しを含め、多様な価格体系で顧客ニーズに応えてまいります。

飲料製造事業においては、小売業等向けのプライベートブランド（PB＝自主企画）の清涼飲料・低アルコール飲料の市場が急拡大しており、大手小売業向けに高品質で価格訴求力のある商品の企画提案型営業をさらに強化してまいります。

#### (6) 経営者の問題認識と今後の方針について

市場が伸びないなか、自販機設置の過当競争が進んでおり、自販機1台当たりの売上高は年々悪化しております。当社グループでは不採算自販機のスクラップ・アンド・ビルドを徹底するとともに、経営資源の重点的かつ効率的な投入を図りながら、同業の専門オペレーターとの業務提携、M&Aを積極的に推進し、グループの競争力を高めてまいりました。当社グループが流通の川下で選択するこの成長戦略は、今後とも引き続き優位性を堅持できるものと考えております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,747,624	6,747,624	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	6,747,624	6,747,624	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	6,747,624	-	798,472	-	976,192

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 148,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,596,600	65,966	-
単元未満株式	普通株式 2,224	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	6,747,624	-	-
総株主の議決権	-	65,966	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の「株式数(株)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数(個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

## 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
アシードホール ディングス株式会 社	広島県福山市船町 7番23号	148,800	-	148,800	2.21
計	-	148,800	-	148,800	2.21

(注)上記のほか、平成24年5月11日取締役会決議による取得自己株式44,900株があり、当第1四半期会計期間末現在の実質所有自己株式数は193,700株となります。

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,675,376	1,776,980
受取手形及び売掛金	2,276,030	2,981,601
商品及び製品	1,082,245	1,181,771
原材料及び貯蔵品	208,948	221,676
前払費用	1,111,011	1,075,884
繰延税金資産	62,681	78,195
その他	559,168	661,701
貸倒引当金	6,523	6,917
流動資産合計	6,968,939	7,970,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,261,522	1,241,174
機械装置及び運搬具(純額)	461,533	454,332
工具、器具及び備品(純額)	26,756	25,336
土地	3,819,750	3,782,000
リース資産(純額)	1,062,268	1,046,328
建設仮勘定	14,186	17,826
有形固定資産合計	6,646,017	6,566,999
無形固定資産		
のれん	572,997	571,495
リース資産	39,940	38,367
その他	30,213	32,180
無形固定資産合計	643,151	642,044
投資その他の資産		
投資有価証券	511,926	457,556
長期貸付金	33,392	32,863
長期前払費用	932,598	970,134
繰延税金資産	145,501	143,619
その他	601,135	599,063
貸倒引当金	30,983	29,055
投資その他の資産合計	2,193,571	2,174,182
固定資産合計	9,482,740	9,383,226
資産合計	16,451,679	17,354,121



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,846,023	3,542,769
短期借入金	2,895,000	3,105,000
1年内返済予定の長期借入金	1,136,809	879,624
リース債務	369,486	367,605
未払金	1,100,207	1,351,376
未払法人税等	103,236	45,960
未払消費税等	98,304	73,202
繰延税金負債	108	69
賞与引当金	130,961	53,056
その他	726,314	947,101
流動負債合計	9,406,451	10,365,765
固定負債		
長期借入金	1,592,334	1,512,498
リース債務	828,770	813,389
再評価に係る繰延税金負債	41,564	41,564
退職給付引当金	119,768	121,431
役員退職慰労引当金	166,480	161,480
資産除去債務	2,800	2,800
その他	236,628	253,194
固定負債合計	2,988,346	2,906,357
負債合計	12,394,798	13,272,123
純資産の部		
株主資本		
資本金	798,472	798,472
資本剰余金	1,012,778	1,012,778
利益剰余金	2,946,149	3,048,341
自己株式	102,827	142,234
株主資本合計	4,654,572	4,717,358
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,200	89,986
土地再評価差額金	544,561	544,561
為替換算調整勘定	1,928	812
その他の包括利益累計額合計	597,690	635,360
純資産合計	4,056,881	4,081,998
負債純資産合計	16,451,679	17,354,121

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	9,367,646	8,931,860
売上原価	6,273,135	5,924,796
売上総利益	3,094,511	3,007,063
販売費及び一般管理費	2,819,054	2,781,728
営業利益	275,456	225,335
営業外収益		
受取利息	1,461	1,443
受取配当金	3,473	4,190
不動産賃貸料	3,248	1,444
受取賃貸料	5,011	4,545
受取保険金	18,392	308
その他	15,604	10,828
営業外収益合計	47,191	22,760
営業外費用		
支払利息	24,532	24,471
その他	7,067	6,667
営業外費用合計	31,599	31,138
経常利益	291,048	216,956
特別利益		
固定資産売却益	-	3,346
負ののれん発生益	21,622	-
その他	84	-
特別利益合計	21,707	3,346
特別損失		
固定資産売却損	-	5,952
固定資産除却損	-	111
投資有価証券評価損	-	11,387
役員退職慰労金	7,000	-
災害による損失	3,387	-
特別損失合計	10,387	17,451
税金等調整前四半期純利益	302,368	202,851
法人税、住民税及び事業税	42,648	58,241
法人税等調整額	10,804	10,371
法人税等合計	53,453	47,869
少数株主損益調整前四半期純利益	248,914	154,982
四半期純利益	248,914	154,982

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	248,914	154,982
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,999	38,785
為替換算調整勘定	390	1,116
その他の包括利益合計	3,609	37,669
四半期包括利益	245,305	117,313
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,305	117,313

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間において、連結子会社であるアシード株式会社が、静岡ビバレッジ株式会社の全株式を取得し新たに子会社としたため、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

## 【注記事項】

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形	3,786千円	386千円

## (四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
減価償却費	151,314千円	158,236千円
のれんの償却額	20,230	20,897

## (株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	50,735	8	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成23年4月1日付をもって、宝積飲料株式会社の全株式を株式交換により取得し新たに子会社としたため、連結の範囲に含めております。この結果、資本剰余金が36,585千円増加、利益剰余金が21,622千円増加及び自己株式の割当てに伴う増加が194,518千円発生し、株主資本全体で252,726千円増加しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	52,790	8	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造 事業	飲料サービス システム事業	不動産運用 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,512,933	3,689,529	148,725	16,457	9,367,646	-	9,367,646
セグメント間の内部 売上高又は振替高	26,656	168,001	729	37,711	233,098	233,098	-
計	5,539,589	3,857,530	149,454	54,169	9,600,745	233,098	9,367,646
セグメント利益	138,177	186,972	14,759	22,718	362,628	87,171	275,456

(注)1. セグメント利益の調整額 87,171千円には、セグメント間取引消去3,470千円、のれんの償却額 2,507千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 88,135千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第1四半期連結累計期間において、負ののれん発生益21,622千円を計上しております。これは飲料製造事業において、平成23年4月1日を効力発生日とする株式交換により、宝積飲料株式会社を完全子会社化したことに伴う同社の全株式の取得により発生したものであります。

当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造 事業	飲料サービス システム事業	不動産運用 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,182,935	3,618,478	112,965	17,481	8,931,860	-	8,931,860
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22,676	216,422	505	38,398	278,002	278,002	-
計	5,205,611	3,834,901	113,470	55,879	9,209,862	278,002	8,931,860
セグメント利益	75,372	197,506	21,816	29,963	324,659	99,324	225,335

(注) 1. セグメント利益の調整額 99,324千円には、セグメント間取引消去 1,792千円、のれんの償却額 2,507千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 95,023千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間において、自販機運営リテイル事業を営む連結子会社であるアシード株式会社が静岡ビバレッジ株式会社の全株式を取得し、同社は当社の連結子会社となりました。なお、当該事象によるのれんの増加額は当第1四半期連結累計期間において15,000千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

長期貸付金及び長期借入金については、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動は認められないため、注記を省略しております。

(有価証券関係)

その他有価証券で時価のあるものについては、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動は認められないため、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引は利用していないため該当事項はありません。

## (企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

## (取得による企業結合)

連結子会社であるアシード株式会社による企業結合

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 静岡ビバレッジ株式会社

事業の内容 主に缶・ボトル飲料等の自動販売機による小売販売及び運営管理

## (2) 企業結合を行った主な理由

自販機運営リテイル事業の当地区における間接業務の一体的運用による効率化を図り、競争力を高め、営業基盤の強化を図るためであります。

## (3) 企業結合日

平成24年6月1日(株式取得日)

## (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

## (5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

## (6) 取得した議決権比率

100%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

連結子会社であるアシード株式会社による現金を対価とする株式取得であるためであります。

## 2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成24年6月1日から平成24年6月30日まで

## 3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

被取得企業の取得原価は3,941千円であります。

## 4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

## (1) 発生したのれんの金額

15,000千円

## (2) 発生原因

主として静岡ビバレッジ株式会社が自販機運営リテイル事業を展開する地域における間接業務の効率化によって期待される超過収益力であります。

## (3) 償却方法及び償却期間

20年間にわたる均等償却

## 5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

## (1) 資産の額

流動資産	19,546千円
固定資産	286千円
計	19,832千円

## (2) 負債の額

流動負債	29,890千円
固定負債	1,450千円
計	31,340千円



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	37円41銭	23円51銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	248,914	154,982
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	248,914	154,982
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,653	6,590

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成24年5月11日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額.....52,790千円

1株当たりの金額.....8円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成24年6月28日

(注) 平成24年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月9日

アシードホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 世良 敏昭 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 家元 清文 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアシードホールディングス株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アシードホールディングス株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。